

交通安全 講座

高齢運転者編

あなたは**危険**に気づけるか!?



交通安全の専門家が
わかりやすく解説!

監修：鈴木 春男 千葉大学名誉教授



内閣府

高齢運転者の事故について

みなさん、最近運転をしていてヒヤリとした経験はありませんか？

それは、歳を重ねたことによる視力の衰えや判断力の低下などの身体機能の変化によって、ハンドルやブレーキ操作に遅れが出ているからかもしれません。こうした加齢による身体的な変化は、誰にでもおとずれるものですが、事前に認識して、意識的に補うことで、交通安全力を維持することができます。

ぜひ、この冊子を最後までご覧いただき、いつまでも安全運転を続けてください。



監修：鈴木 春男
千葉大学名誉教授
高齢運転者交通事故
防止対策に関する
有識者会議 委員

みんなで挑戦！危険予測トレーニング

運転席から見える景色を見て、どんな危険が隠れているか発見してみましょう。すでに見えている危険はもちろん、これから起こるかもしれない見えてない危険もあるので、ご家族、ご友人などみんなで話し合いながら見つけてみてください。

危険
予測

1

あなたは片側1車線の道路を時速30kmで走行しています。3秒後（約25m前進）に危険になりそうな場所をいくつ見つけられますか？



危険予測 1 答え



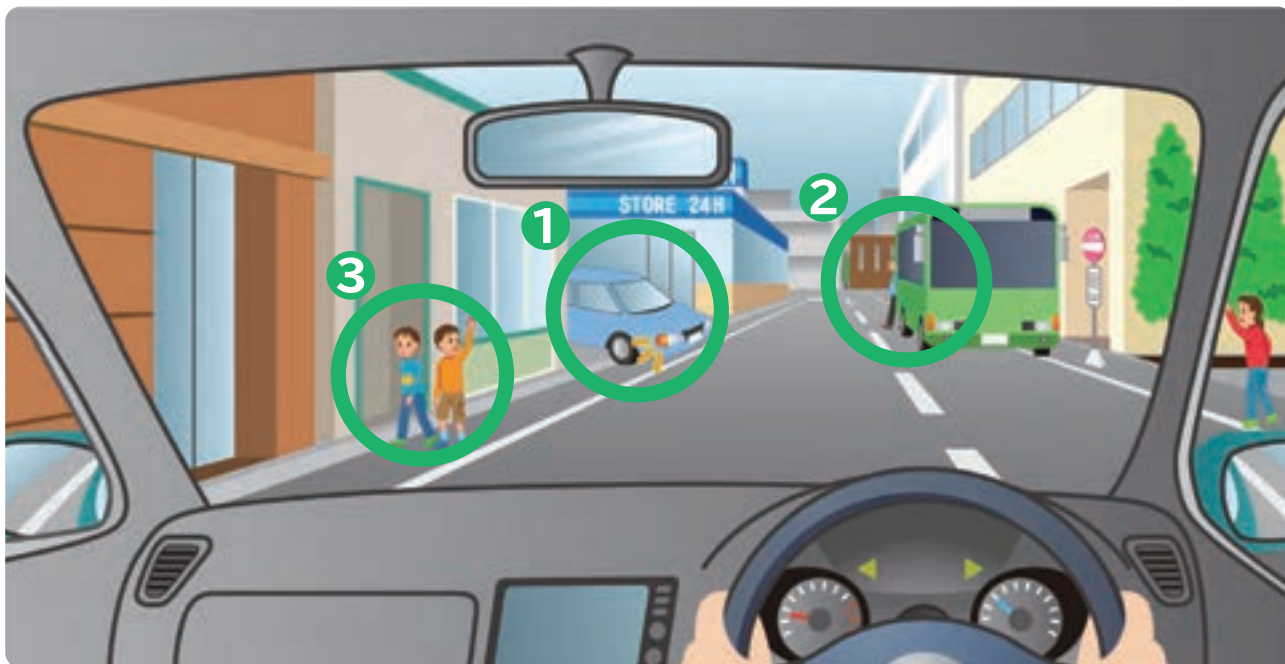
- ① 駐車場から車が出てきました。
- ② バス停に停車中のバスの陰から人が渡ってきました。
- ③ 子どもが道の反対側にいる友だちの方へ走り出しました。

すべての危険を予測できましたか？

駐車場から出てくる車に意識が集中してしまい、バスの陰から人が飛び出してきたり、子どもが道の反対側へ走り出すことを予測できなかったという方は、実際に車を運転しているときにも、危険な場所を見落としているかもしれません。



次のページで振り返ってみましょう。



- 1 駐車場から車が出ようとしています。ウインカーが点灯しているのが見えるので、こちらに向かって出てくるのが予測できます。
- 2 バスの陰に人影が見えています。道を渡ろうとしているのかもしれませんが。
- 3 子どもの目線の先に、友だちがいます。そちらに向かって急に飛び出してくるかもしれません。

安全運転のポイント

- ◎ 高齢者は複数のことを瞬時に判断するのが苦手になる。
- ◎ 加齢とともに徐々に視野が狭くなる。
- ◎ 標識や信号の見落としを防ぐには意識的に目や頭を左右に動かして確認を！

加齢による身体機能の衰えに注意！ 意識的に注意深く確認しましょう。



歳を重ねると複数の情報を同時に処理することが苦手になったり、徐々に視野が狭くなるなど、身体機能の衰えも出てきます。

駐車場から出てくる車に注意が行き、それ以外の危険が予測できなかったという方は、そういった変化が出始めているのかもしれません。

高齢運転者の事故は、標識や信号を見落として起きるケースが多いので、意識的に目や頭を左右に動かすなど、注意深く確認するようにしましょう。

危険
予測 **2**

あなたは前方の大通りに合流するため、住宅街の狭い道路を走行しています。注意しなくてはいけないところをいくつか見つけられますか？

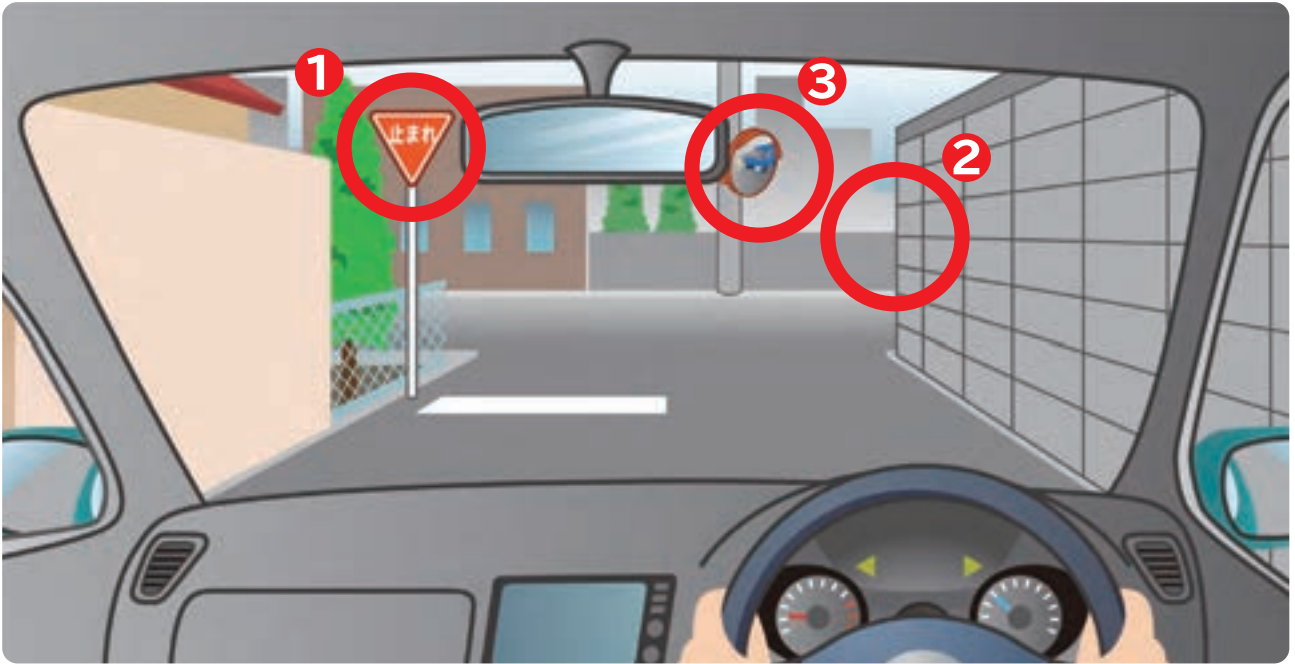


一時停止の
標識が
見えますね。



どんなところに
注意すれば
いいのかしら？





- ① 一時停止の標識のある交差点です。車はもちろん、歩行者や自転車などが横切る可能性があります。
- ② 右側に塀があり、見通しがよくありませんので、歩行者や自転車が飛び出してくるかもしれません。
- ③ カーブミラーにウインカーを点灯させている車が見えます。こちらに曲がろうとしているので、停止線より少し手前で停止して曲がりやすくしてあげましょう。

安全運転のポイント

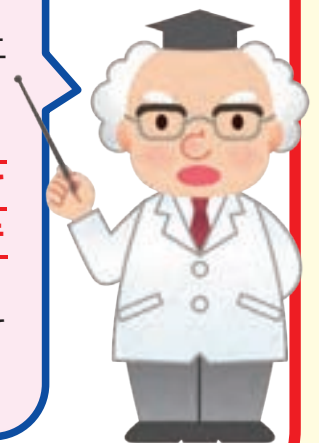
- ◎ 一時停止でしっかり停止。徐行しながら安全確認を！
- ◎ 実はほとんどの人が、一時停止で正しく停止できていない。
- ◎ 出会い頭事故の多くは、止まるべきところで止まらないことが原因です。

一時停止ではしっかり停止！ 徐行しながら確認しましょう！

住宅街の細い道から大通りに合流するときなど、一時停止標識と停止線がある場所できちんと止まって安全確認をしていますか？

高齢運転者を対象にした調査では、**80%の方が「停止線で停止し、安全確認してから徐々に出る」と答えますが、その後、車に乗って通過方法を観察すると、実際に停止線で止まって安全確認できた方は15%しかいませんでした。**

あらためてご自分の運転を振り返ってみてください。自分では止まっているつもりでも、実際には止まっていないかもしれません。



危険
予測

3

あなたは**交差点で右折**しようとしています。**危険な場所**をいくつか
見つけられますか？



対向車が
譲ってくれたから
右折できそうだな。



右折時は、瞬時に
いろいろな状況判断を
しなければいけないので
十分に注意が
必要ですよ。





- 1** 対向車の陰からバイクが出てきました。対向車が仮に止まってくれても急に右折をするとバイクと接触する可能性があります。
- 2** 駐車しているタクシーの向こう側や脇から歩行者や自転車があなたの前に飛び出してくるかもしれません。
- 3** 右折先の横断歩道を渡る歩行者や自転車がいます。

安全運転のポイント

- ◎ 対向車が仮に止まってくれても安全確認を忘れない。
- ◎ 駐車車両の陰には危険がたくさんある。
- ◎ 陰からバイクが飛び出してくるかもしれないなど、いつも3秒先の危険を予測することを心掛ける。

右折は急がず慎重に！ 陰から出てくるバイクにも注意しましょう！

高齢運転者の事故の中で注意しなければならないのが、右折時の事故です。右折時には、対向車との距離、歩行者や自転車の有無など多数のことを同時に判断することが求められますが、既に述べたように、歳を重ねるとそういった能力が衰える傾向がありますので、注意が必要です。

また、右折時に対向車が止まって譲ってくれと、つい安心して安全確認を忘れてしまいがちですが、陰からバイクや自転車が飛び出してくることもあります。安全確認を忘れずに慎重に曲がるようにしましょう。



知れば役立つ! 交通安全〇×クイズ

いつまでも安全運転を続けるために、
知っているのと役に立つ交通安全クイズです。



第1問

高齢運転者の交通死亡事故は電柱などの
工作物への衝突や出会い頭の事故が多い?

はい
 いいえ

第2問

運転免許証を自主返納した方が申請で
きる「運転経歴証明書」は身分証明書と
しては使えない?

はい
 いいえ

第3問

動きながら物を見たり、動いている物
を見たりする「動体視力」の低下は眼鏡など
によって矯正できる?

はい
 いいえ

第4問

交通事故を防止するには、安全運転を
心掛けるしかない?

はい
 いいえ

第5問

平成29年3月12日に施行された改正道路交
通法では、75歳以上の方に一定の違反行為
があった場合には、運転免許証の更新時以外
にも認知機能検査を受けなければならない?

はい
 いいえ

第1問の正解

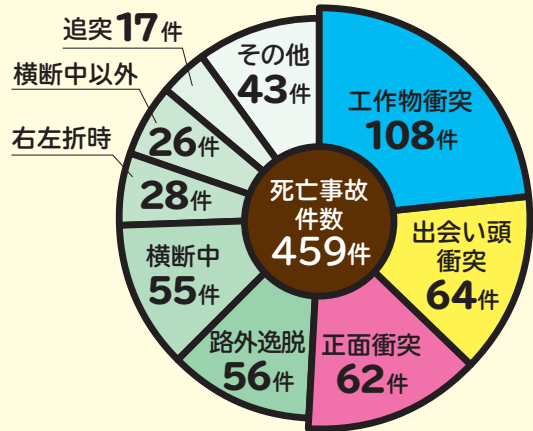


多い事故は**工作物衝突**や**出会い頭事故**でした。



高齢運転者の交通事故の中で多いのがガードレールや電柱などの「**工作物への衝突**」や交差点で起きる「**出会い頭事故**」です。後者は特に、信号機のない交差点でよく起きているので注意が必要です。三番目に多いのが「**正面衝突**」です。

75歳以上高齢運転者死亡事故の
類型別件数(平成28年)



出典：警察庁「交通事故統計」

第2問の正解

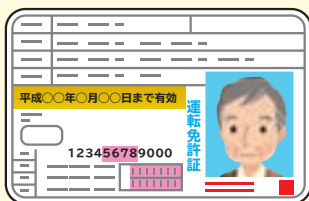


「**運転経歴証明書**」は**身分証明書**として使えます。

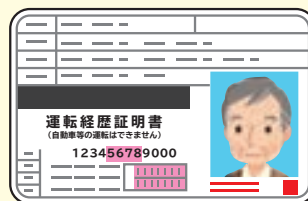
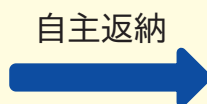
運転免許証を自主返納した方が申請できる【**運転経歴証明書**】は、**運転免許証と同様に身分証明書**として利用することができます。

また、【**運転経歴証明書**】を提示することで、高齢者運転免許自主返納サポート協議会の加盟店や美術館などで、さまざまな特典を受けることができます。さらに、自主返納した方々への支援を用意している市区町村もあります。

運転に不安を感じるがあったら、ご家族や運転免許センター等に設けられた**運転適性相談窓口**に相談して**運転免許証の返納**をすることも交通事故防止の1つの手段です。



運転免許証



運転経歴証明書



身分証明書

さまざまな特典

詳細については、お住まいの都道府県警察、都道府県、市区町村等にお問い合わせください。

第3問の正解



「動体視力」の低下は、眼鏡などによって矯正できません。

運転に必要な情報の9割以上は目から入ってくるため、視力はとても大切です。しかしながら、年齢とともに目の機能は低下します。特に、「動体視力」は、目のレンズ部分である水晶体の厚みを迅速に調整する必要があるため、加齢により著しく低下すると言われ、眼鏡などによって矯正することはできません。しかし、運転方法によって機能の低下を補うことは可能ですので運転をする際は、**速度を落としたり、長時間の運転を控える**などの工夫をするようにしましょう。



第4問の正解



安全運転を心掛ける以外にも、交通事故を防止する方法はあります。



交通事故を防止するには、**安全運転を心掛ける**ことが一番大切ですが、どんなに注意していても完璧な運転を続けることは難しいものです。ちょっとしたミスが事故につながるケースもあるでしょう。

最近では、高齢者の運転をサポートしてくれる**先進安全技術**を搭載した車が数多く登場していますので、そういった車を選ぶということも交通事故防止につながることを覚えておきましょう。

高齢者の運転をサポートする先進安全技術とは？

自動ブレーキ

前方の衝突の危険を感知して、自動的にブレーキを作動

ペダル踏み間違い時 加速抑制装置

アクセルとブレーキの踏み間違いによる急加速を抑制

車線逸脱警報装置

走行中の車線からの逸脱を警報音でドライバーに警告

先進ライト

対向車などの有無に応じ自動的にハイビームとロービームを切り替えたり、ハイビームの照射範囲を部分的に減光
など

※先進安全技術は、運転者が責任を持って安全運転を行うことを前提とした運転支援ですので、その限界や注意点を正しく理解し、その技術を過信せずに運転しましょう。

第5問の正解



**75歳以上の方が一定の違反をすると
臨時認知機能検査が行われます。**



高齢運転者対策の推進を内容とする改正道路交通法が平成29年3月12日に施行されました。

1) 臨時認知機能検査・ 臨時高齢者講習

新設

●臨時認知機能検査

75歳以上の方が、信号無視や一時不停止など認知機能が低下したときに起こしやすい違反行為があった場合に臨時認知機能検査を受けなければなりません。

●臨時高齢者講習

臨時認知機能検査の結果、認知機能の低下が運転に影響するおそれがあると判断された方は、臨時高齢者講習（実車指導1時間、個別指導1時間）を受講しなければなりません。

2) 臨時適性検査制度の見直し

臨時認知機能検査や運転免許証更新時の認知機能検査で認知症のおそれがあると判断された方は、臨時適性検査（医師の診断）を受け、または命令に従い主治医等の診断書を提出しなければなりません。

※医師の診断の結果、認知症と判断された場合は、運転免許証の取消し等の対象となります。

3) 高齢者講習の合理化・高度化

認知機能検査の結果によって受ける講習の内容等が変わります。高齢者講習は、75歳未満の方や、認知機能検査で認知機能の低下のおそれがないと判定された方に対しては2時間に合理化（短縮）されます。その他の方に対しては、個別指導を含む3時間の講習となります。

臨時認知機能検査の 要件となる違反行為

- 信号無視
（例：赤信号を無視）
- 通行禁止違反
（例：通行禁止の道路を通行）
- 通行区分違反
（例：逆走、歩道を通行）
- 横断等禁止違反
（例：転回禁止の道路で転回） など

✓安全運転チェックリスト

車に乗る前にいつも確認して
いつまでも安全運転を続けましょう!

- 1. 一時停止ではしっかり停止!**
必ず一旦停止をした後に、徐行しながら確認しましょう!
- 2. 出会い頭に要注意!**
高齢運転者に多い「出会い頭事故」は、信号機のない交差点でよく起きています。
- 3. 右折は急がず慎重に!**
陰から出てくるバイクなどにも注意しましょう!
- 4. 考え事は危険発見の妨げに!**
考え事や脇見運転は、注意力を低下させ、事故原因の多数を占める「発見の遅れ」を招きます。
- 5. 加齢による身体機能の変化に注意!**
複数事項の瞬時の判断が苦手になったり、視野が狭まります。意識的に目や頭を左右に動かすなど、しっかり確認しましょう。

**70歳以上の方は
高齢運転者標識を付けましょう!**



このマークを表示している車に対して、幅寄せや無理な割り込みをすることが禁止されています。車の前面、後面に周囲の車からはっきりと見えるように表示しましょう。